

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500194		
法人名	(株)サンシャインライフ		
事業所名	サンシャインプレミアム中津川グループホーム		
所在地	中津川市駒場1666番地の3965		
自己評価作成日	令和2年6月22日	評価結果市町村受理日	令和2年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191500194-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑と陽光に恵まれた閑静な高台にグループホームが建っています。グループホームということもありご自宅感覚での生活として、洗濯干し・畳み、食事の盛り付け等をして頂き、日常生活を忘れないように生活レクに取り組んでいます。又散歩(雨天時は施設内を歩きます)・カラオケ・口腔体操・トレーニングマシン(ホグレル)等にて体力低下防止に努め楽しみも取り入れています。ご家族様のご協力の元、連絡を密に取り面会の機会も積極的に作る様取り組み、ボランティアによるイベントや季節に応じた外出・ドライブなどご満足頂ける様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台に建つ事業所は、笠置山の夕日が美しい自然豊かな環境にある。開設3年目を迎え、地域の区長や民生委員の協力を得て、住民との交流機会を設けている。職員も徐々に事業所の環境と仕事に慣れ、利用者サービスに関する努力の成果がアウトカム項目にも表れている。また、リハビリマシンを使って利用者の筋力低下予防、機能維持・向上の支援、カラオケ機器を利用して脳の活性化を図る等、様々な取り組みを行っている。現在、新型コロナの影響で活動が制限される中でも、職員は利用者のストレス解消と健康維持の為、近隣の散歩を実施している。今年度より、地域医療に熱心な協力医と連携して、家族の協力の下、看取り支援体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の玄関や朝夕のミーティングを行う事務室のテーブルの上に貼り、また管理者の指導を受けながら理念を共有し、実践できるよう心がけている。	理念は、「サンシャイン憲章」として掲げ、それに基づいた行動指針がある。全体会議で理念の周知を図り、引き継ぎや朝礼時にも唱和し、職員間で共有している。利用者が地域と関わりながら、心豊かに過ごせるよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり地域の方に施設内の行事に参加して頂いたりすることで地域とのつながりを保っている。 しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため面会や外出、会議も制限している。	開設3年目の事業所は、区長や民生委員の協力を得ながら、地域との交流を進め、どんど焼きや神社の祭礼などに参加している。法人代表や職員の人脈を活用し、ボランティアや学生の訪問、近隣住民との繋がりが生まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事への参加を地域の方に呼びかけ参加をしていただくことで利用者への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回の会議に参加し利用者の生活状況、サービスの実際等を報告し意見をいただいている。	運営推進会議は、新型コロナの影響で今年度は7月に第1回を開催している。消防署や協力医・家族代表がメンバーに入っており、事業所の取り組みや利用者状況を報告している。災害訓練や看取り問題など様々な意見があり、それらを運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議会議に出席して頂き意見をいただいている。	行政とは、担当者交代の都度、話し合いを行ない、協力関係の構築に努めている。介護保険の改正や新型コロナウイルス対策や外部評価について、相談・助言を得ている。災害時の福祉避難所として協定を結び、今年7月より、介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議会議、全体職員会、ミーティングなどで周知し厳守できるように取り組んでいる。	身体拘束等廃止委員会は、運営推進会議を兼ねて開催している。各居室にモニターを設置し、利用者を見守りながら、拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず4点ベッド柵が必要な場合には、家族と話し合い、ベッドの低床化を図りながら、危険な時間帯の記録、短期間での対応とし、了承を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体職員会で話し合い職員が意識し合い注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ケアマネなどの専門職は知っているが、介護職員の理解についてはまちまちです。これからの課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にはマニュアルで説明を行い理解納得を図っている。利用者家族の考えを聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所契約を結ぶ時、苦情窓口について説明をさせて頂いている。家族の来所時、意見を聞き反映に努めている。	家族の訪問時に、利用者の暮らしぶりを伝え、家族の思いを聴いている。サービス担当者会議や毎月の電話連絡の際にも、家族から意見や要望を聴いている。今後は個人情報にも十分に配慮した上で、家族向けの通信を発行する事を検討している。	利用者や事業所の様子が家族に伝わるように、家族向け通信の発行に期待をしたい。又、職員の紹介や異動についてや、外部評価結果等を伝える手段も工夫する事が望ましい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体職員会、ミーティングなどで意見を聞く機会を設けている。	全体会議には、管理者も出席し、職員の意見や要望を聴いている。経験の浅い職員もあり、意見の相違もあるが、利用者の利益を第一に検討している。代表者は不定期ではあるが、来所した際には職員個々に声かけをして、意見を聴き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長や人事部長との面接は年1回実施され意見・要望を聞いている。施設長は適宜職員から話を聞きながら個人個人の意見を把握して、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には研修期間は日々担当者をつけて指導をしている。個人個人に合わせた資格取得のための研修やグループホーム部会などの研修会など内外の学習会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会やケアマネ部会の研修などに参加したり、機会があるごとに他のグループホームや小規模多機能と訪問しあって交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や面談を行い思いや要望等を聞いた上で安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や面談を行い思いや要望等を聞いたり、施設見学で環境を見ていただいて安心して頂けるような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時の本人や家族との会話や状況から、まずどんな支援が必要なのか、何を優先するのかを見極める対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の希望や意思を把握し、入居者同士の関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と相談しながら連携し本人を支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人、家族、親戚の方との面会や行きつけの美容院などへの外出は関係が切れないように努めている。	家族や親戚が訪問し、買い物や墓参りなどに連れ出している。来所が困難な家族や友人、知人には電話や手紙等で関係継続に繋げている。定期的に訪問する理美容師やボランティア団体とも馴染みになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフが情報を共有しながら、利用者同士が支えあい助け合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも相談など支援していくことを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の希望や思いを、会話や表情などから把握し、ミーティングで共有し家族からも情報を得ている。	職員は日々のケアの中で、利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。意思の疎通が難しい場合は、表情やしぐさなどから本人の気持ちを推し量り、家族からも情報を得ている。記録した情報を職員で共有し、その人らしい暮らしの支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの状況を本人や家族から情報を得たり、ミーティングや日々の生活の中でも把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で本人の行動、会話、表情などやミーティングで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い本人、スタッフに意見を求め、家族の意見も反映するようにしている。	介護計画作成時には、家族の参加を得てサービス担当者会議を開催している。全体会議では、利用者の日頃の様子やモニタリング結果を検討し、利用者・家族の意見が反映された介護計画の作成に努めている。	介護計画で挙げた個々の目標に対しての評価が分かるモニタリング表を作成している。モニタリングの結果についても、家族と話し合いをした上で、次の介護計画を作成されることが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、連絡記録をスタッフ間で共有周知し活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの希望に応じ、外出や外泊に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに参加したり、ボランティアの音楽会には地域の方も施設に来ていただきみんなで楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意見を大切に、希望された方は契約医療機関の医師に定期的に往診を依頼している。在宅のかかりつけ医を希望された方については通院を家族の協力をお願いしている。	入居時に、希望のかかりつけ医を選択出来る事を説明している。現在、全員が協力医を選択し、定期的に往診を受けている。専門医への受診は家族が対応し、関係者で受診結果を共有している。希望者には、歯科医の往診もあり、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職に伝え主治医の指示や受診ができるよう支援している。また看護に即した介護の方法について看護師から指示を受け利用者への気づきが出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	面会に行ける職員が、誰でも寄って励ましたり施設の様子を教えたり、病院での様子を職員で共有し医師と退院のタイミングを図る。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用申し込み、入所契約時に本人や家族と話し合い、主治医の指示連携に努めている。状態の変化のあった時は家族や主治医との連携を密にする。今年6月からは希望のある方については看取り介護も行っている。	重度化・終末期の体制について、本人・家族に説明し、同意書を交わしている。看護師は、日頃から利用者の状態を把握し、必要時には関係者で話し合いの場を設けている。今年度より、地域医療に力を入れている主治医の協力が得られ、看取りも行なわれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が実践力を身に付けるため研修を実施している。また介護の浅い職員には、個人的に指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回 消防署などの指導を受け実施した。地域との協力体制を築いていきたい。	災害訓練は、消防署の指導の下で行い、前回の課題点であった夜間想定での訓練も実施している。マニュアルに基づき、初期消火・避難誘導などを実践している。今後は運営推進会議でも話し合い、地域住民の協力を得ながら、防災訓練を実施する意向にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみのある言葉かけを心がけ、家庭的な和やかな雰囲気になるようにしている。またプライバシーに注意して羞恥心を傷つけないように配慮している。	職員はいつも笑顔で接し、利用者の自尊心を損なわない言葉遣い・対応を心がけている。利用者の前では職員同士の会話を控え、利用者ときちんと向き合う姿勢を大切にしている。入浴や排泄時には、羞恥心に配慮し、居室の施錠も本人に任せている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り自己決定できるよう支援している。家族への電話、散歩などは本人の希望にそって支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の基本的な流れはできているが、個別ケアを心がけて支援している。利用者への声掛けを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフが一緒に用意できるよう常日ごろ心がけている。必要品の申し出があると希望で職員が買い物に行ったり、可能な場合は買い物同行支援を考えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には一緒に買い物にでかける。調理、盛り付け、片付けなど分担しながら一緒にかかわっている。好き嫌いなどを把握し、糖分、塩分を控えた食事をスタッフと楽しんで食事をしている。	食事は、専門の調理員が個々の食事形態を把握し、彩り豊かで栄養満点の食事を提供している。利用者も野菜の皮むきやテーブル拭きなどを手伝っている。調理員・ホーム長は同じものを食し、作り方や味付けなどを話し合って楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を点検し変化があるときは栄養摂取や水分確保ができるよう看護師とともに工夫する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきなどの口腔ケアを実施、声掛けを行っている。また本人の状態に応じて職員が介助おこなう。個々の希望に応じて歯科医師などの往診時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	スマホ入力により排せつの間隔が把握できるのでトイレ誘導を活かして、おむつの使用を減らす支援につなげたい。	個々の排泄パターンをパソコンで管理し、データを基に声かけをしている。ほとんどの人が昼夜ともトイレでの排泄を習慣化している。数名のおむつ使用者はあるが、夜間のみポータブルトイレを使用する人もある。個々に排泄用品を使い分け、自立の支援・本人負担の削減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スマホ入力により排せつの間隔が把握できるので水分の補給や野菜や繊維の多い食品等を利用したり、協力医の指示を頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望を大切に気持ちよく入浴していただけるよう支援している。面会時には後にしたりしている。	浴室には、個浴槽・機械浴槽が備えてある。同性介護者希望や湯加減など、利用者の希望に柔軟に応じている。スライド製の個浴槽は、身体状況に合わせ、左右どちらからも入る事が出来る。一人ひとり湯を入れ替え、ゆったりと気持ちの良い入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の入り口はドアになっていて、リビングなどの雑音が入りにくく静かに眠れる様な構造になっている。昼間はソファで休んだり横になり休息できる環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の症状に異常がある時には協力医に連絡し指示を受けている。薬の説明書を個別ファイルに綴じ何時でも確認できるようにしている。薬の変更が有ったときには申し送りを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状態に合わせて、役割・楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候や状態に合わせて、外出や散歩の希望や楽しみを支援している。雨天時はホームの廊下を散歩したり、暖かい日は庭でお茶会を楽しんでいます。	家族と喫茶店に出掛けたり、一時帰宅をする人、職員と共に買い物や、数人でドライブを兼ねて町中を巡る等をしていたが、現在は新型コロナの影響で、外出を自粛している。状況を見ながら、気分転換とリハビリを兼ねて、事業所周辺の散歩を行っている。	

岐阜県 サンシャインプレミアム中津川グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望に応じて支援している。預かっている時も支払い時に本人にかかわって貰うなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の気持ちを尊重し支援している。家族等にも理解していただいている。自分で手紙を書いたり、携帯電話を所持しているかたもいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはプランターに草花を植えみんなで水やりをして季節を楽しんでいる。柔らかな灯りのリビングで好きな飲み物を一緒に飲む。ほうば寿司や栗ご飯など四季折々の土地の食べ物などで季節感を表している。	ホームは、自然素材をふんだんに使用したぬくもりのある環境であり、床暖房も取り入れている。事務所と対面式の台所の間には、十分な広さの共用空間があり、随所に切り花を飾っている。雄大な景色を眺めながら、皆とテレビを見たり、新聞や雑誌を見る人、離れた場所のソファでくつろぐ人など、個々に自由に過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、自由なスペースを確保し自由に団らんしている。居室で気の合った仲間同士団らんしている。好きな時に自由にお茶をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのもので居心地よく過ごしていただけるよう家族等にお願いしている。本人と家族は自由に部屋づくりをしている。	居室には、洗面台やクローゼット、ベッドが備えられ、本人の施錠が可能である。転倒防止のための見守りセンサーも備わっている。クローゼットを有効に活用し、馴染みの物品を使いやすく配置している。すっきりとした部屋で、洗顔、歯磨きができ、整容を楽しみ、自分らしくゆったりと過ごせる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員間で情報交換をしながらその人らしく生活が送れるよう支援している。職員が本人にお手伝いする気持ちの関係づくりを心がけている。		